

不祥事根絶に向けた教育長のメッセージ

～児童生徒の笑顔と教職員の信頼のために～

『児童生徒に対するわいせつ行為は、必ず根絶しなければならない。』

教職員による不祥事の根絶に向けては、校内研修の実施をを求めるなど、これまであらゆる機会に教職員一人一人の意識改革と職場風土の改善に向けて取り組むよう求めてきたにもかかわらず、今年度に入っても、繰り返し同様の事故が発生していることは、大変遺憾です。

特に、教職員による児童生徒に対するわいせつ行為は、被害に遭った児童生徒の心に一生の傷を負わせるものであるとともに、教職員1人が起こした事故であっても、これまで学校において地道に積み重ねてきた努力や成果が一瞬にして無に帰するだけでなく、児童生徒、保護者及び県民の学校教育全体への信頼を著しく損なわせるものであることを忘れてはなりません。

教職員であれば、児童生徒に対し愛情を持って職務に従事することは当然のことです。しかしながら、その愛情とは、学校教育に携わるプロとして、「すべては子どもたちのために」との思いを持ち、真摯に児童生徒の教育に取り組む教育愛のことであり、恋愛感情などではないことは言うまでもありません。

そして何よりも不祥事を根絶する最大の鍵は、教職員一人一人の心の中に、揺るぎない遵法精神の岩を築くことです。私は、千葉県すべての教職員が、高い倫理観を持ち、その職務の崇高な使命と職責の重さを自覚していると感じています。ぜひ、児童生徒の無限の可能性を引き出すことのできる教育愛にあふれた教職員として、日々の業務に取り組まれることを切に願います。

内藤敏也（千葉県教育委員会教育長）



※教職員による、児童生徒に対するわいせつ・セクハラ行為を防ぐために!



絶対にゆるさない!

昨年度より、若年層教員によるわいせつ事故が増えています。わいせつ事故は、子どもたちに癒えることのない傷を残します。わいせつ事故を根絶するために、教職員一人一人の自覚が求められています。

こんな場面はありませんか!?



児童生徒への
不必要な身体的接触



自家用車への同乗



誤った恋愛感情

信頼を裏切る行為



高い倫理観

平成29年8月
千葉県教育委員会

深い教育愛